

病気を持った患者の歯科治療
～膠原病患者の口腔病変～

岩崎 剛（兵庫医療大学薬学部 教授）

「膠原病」は、全身の「結合組織」に「フィブリノイド変性」を認める疾患で、自己免疫反応により発症する。関節リウマチは、わが国で70万人以上の患者がいる代表的疾患である。シェーグレン症候群は、唾液分泌低下による口腔病変を高頻度に認め、わが国で10～30万人もの患者がいる。その他、口腔病変を伴う「膠原病」には、口腔内潰瘍を認める全身性エリテマトーデスやベーチェット病、開口困難や舌小体短縮などを伴う全身性強皮症などがある。膠原病患者は一般に抑うつ、神経過敏傾向にあり、知覚過敏や原因不明の疼痛、倦怠感を訴えることが多い。治療に副腎皮質ステロイドや免疫抑制剤が使用されるため、免疫力低下に伴う、口腔カンジダ症などの口腔内感染症を認めることも多い。また、副腎皮質ステロイドによる抜歯後の止血や治癒の遷延を認めることもある。本講演では、「膠原病」患者の特徴的な臨床症状、合併症について口腔病変も含め解説する。